様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年　５月１４日現在

研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2007～2008
課題番号：　１９７９１６８５
研究課題名（和文）　超・極低出生体重児の乳幼児期における育児支援プログラム開発のための介入研究
研究課題名（英文）　Intervention research on the development of parenting support program for mothers and infants with the extremely and very low birth infant

研究代表者
岡光　基子（OKAMITSU MOTOKO）
東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・助教
研究者番号：２０２８５４４８

研究成果の概要：
極低出生体重で出生した児とその母親に対する母子相互作用に着目した縦断的な介入研究を実施した。毎回の家庭訪問で母親の訴えに傾聴し、具体的な育児方法について支援を行ってきた。育児支援を行う上で母親とのパートナーシップを形成することの必要性が示唆された。また、育児支援プログラム開発のための準備として、日本語版 Nursing Child Assessment Feeding Scale(J-NCAFS)を開発し、信頼性検討をした。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	1,300,000	0	1,300,000
２００８年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総　計	2,300,000	300,000	2,600,000

研究分野：臨床看護学
科研費の分科・細目：小児看護学
キーワード：
(1)　育児支援　(2)　母子相互作用　(3)　乳幼児
(4)　低出生体重児　(5)　介入研究

１．研究開始当初の背景

現代の子育て環境は、小児虐待など家族が子どもを養育する過程で起こる様々な社会問題をかかえている。特に超・極低出生体重児は長期に渡って母子分離を体験しており、愛着形成に問題を生じやすく、母親は育児困難に陥りやすいことが指摘されている 1)。しかしながら、現段階で医療機関や地域の公的機関が行う子育て支援活動のあり方から、退院後、家族がより健全な生活を送ることができるような具体的方法を検討するには至っていないのが現状である。乳幼児期までの母子相互作用は良好な母子関係や子どもの成長・発達の促進のために重要であるが、

超・極低出生体重児はその未熟性のために反応が乏しい傾向にあるなど不利な条件をもっている。これまでの研究では、母子相互作用に関する研究は少なく、特に実践的な新たな支援の具体策についてはほとんどふれられていないのが現状である。子どもやその家族が健全で安心して生活を送ることができるような看護介入を検討する実践・研究活動が求められている。

２．研究の目的

超・極低出生体重で出生した乳幼児期の子どもを母親（家族）が養育する過程において、NCAST 介入モデルを用い、縦断的に介入した結果、母子相互作用がどのように変化していくのかを把握し、そのような母子への効果的な育児支援の介入方法について検討することを目的とする。

・母子相互作用は、介入を実施することによってどのように変化していくかを明らかにする。
・母子の属性および母子相互作用、児の発達、母親の育児ストレス、サポートネットワークとの間の関連性は、介入を実施することによってどのように変化していくかを明らかにする。
・得られた効果から介入内容を見直し、具体的な介入方法について検討する。

３．研究の方法

関東圏内の大学病院の NICU に入院していた、早産・低出生体重で出生し、発達外来にてﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ中の児で、研究参加への承諾が得られた母子を対象に家庭訪問を 5 回行った。その後、他の専門職との調整を行い、家庭訪問以外にも受診に同行するなど具体的な支援を行った。家庭訪問では母子の遊び場面の観察を行った後、津守式乳幼児精神発達質問紙で発達ﾚﾍﾞﾙを明らかにし、子ども総研式育児支援質問紙で母親の育児不安のﾚﾍﾞﾙを調査した。また半構成的面接調査にて育児への捉え方などを明らかにし、育児に関して生じる問題に対して支援を行った。母子相互作用の観察は、Barnard らが開発した NCATS(Nursing Child Assessment Teaching Scale) １）を用いた。NCATS は、遊び場面の母子の相互作用を測定するもので、「子どもの cue に対する感受性」「子どもの不快な状態の緩和」「社会-情緒的発達の促進」「認知発達の促進」の親側 4 下位尺度 50 項目と、「cue の明瞭性」「養育者への反応性」という子ども側 2 下位尺度 23 項目とから構成され、さらに親と子それぞれの随伴性得点も算出される。得点が高いほど相互作用が良好とされる。訪問時にﾋﾞﾃﾞｵ撮影し、ﾗｲｾﾝｽを持つ者がｺｰﾃﾞｨﾝｸﾞを行った。観察者内一致率は 90%以上であった。倫理的配慮として研究の目的を母親に口頭及び文書で説明して協力を依頼し、承諾の場合は同意書への記入を依頼した。

４．研究成果

１）母子相互作用に焦点を当てた支援

極低出生体重で出生した児とその母親に対する母子相互作用に着目した縦断的な介入研究を実施した。NCATS 得点は、いずれの時期も親側得点および子ども側得点ともに基準データ平均値と比較して差がなく、良好であった。発達の遅れが著しく、母親の不安が強いことから、発達の過程で児が獲得していくわずかな変化でも伝え、母親が児のペースに合わせて関われるよう支援した。特に児が非言語的なサインを表出できていることを認め、母親に繰り返しそのことを伝えてきた。前回の訪問時のﾋﾞﾃﾞｵを見ながら、母親の子どもへの対応で良い点を見出し誉める

ことを行った。支援者は母親のつらい過去を傾聴し、共感することを重視し、ネガティブな声かけはせずポジティブにフィードバックした。また支援者からのオープンクエスチョンにより親自身が自分で考えて気付けるように、振り返りを促すように支援してきた。母子の強みに焦点を当てる支援を実施した結果、徐々に母親は児の発達への見通しが立ったことで前向きな発言が聞かれるようになった。このような母子のニーズに対応できる乳幼児精神保健の実践が求められ、児童精神科医やケースワーカーとの連携をすることで、社会的孤立にある母子を支援へとつなげていくことの必要性が示唆された。育児支援を行う上で日本人の文化的特性をふまえ、母親とのパートナーシップを形成することの必要性を認識させられた。特に、子育てのパートナーとしての信頼関係の構築により、支援者の関わりや考え方が親の中のネガティブな考えを覆すような新しいモデルを創っていく。支援者は、母親を評価せずに信じることが重要である。今後は、母子の強みを引き出し生かしていけるような支援を継続していきたい。

２）育児プログラム開発のための準備としての日本語版 NCAFS

育児支援プログラム開発のための準備として、日本語版 Nursing Child Assessment Feeding Scale(J-NCAFS)を開発し、信頼性検討をした。対象となった日本人母子の属性は以下に示す通りである。子どもの平均月齢は 6.1 か月(SD=3.5)であり、子どもの性別は男児 105 名(47.5%)，女児 116 名(52.5%)，子どもの平均出生時体重は 3154.7g(SD=356.2)であった。母親の平均年齢は 30.1 歳(SD=4.9)で、母親の平均教育年数は 13.9 年(SD=2.1)であった。原版との比較の結果，J-NCAFS の平均総合得点と SD の方が小さく，日本人母子における J-NCAFS による一貫性のある測定が示唆された。また，J-NCAFS の平均得点は対応する原版得点と有意な正の相関関係にあり(総合得点 r=0.69-0.77，下位尺度得点 r=0.28-0.76)，J-NCAFS 内の総合得点と下位尺度得点間にも同様の関係が認められ(r=0.18-0.90)，J-NCAFS の信頼性が示唆された。α係数(KR-20)は 0.71-0.81 であり，内的整合性が示唆された。今後は、妥当性研究ならびに実践研究を進める必要がある。

以上、調査１および調査２を実施し、超・極低出生体重児の乳幼児期における育児支援プログラム開発のための基礎資料としての準備段階にあり、子どもとその家族に対するより具体的な支援対策を検討することができる。母子相互作用は子どもの成長・発達に大きく影響することからも、縦断的に母子相互作用における問題点もしくはその変化を明らかにし、母親が子どもを養育する過程において陥りやすい傾向を探り、介入を行う。そこで得られた介入効果を検討し、超・極低出生体重児の乳幼児期におけるより効果的な育児支援を考えていく上での一資料として役立てたい。今後は、さらに育児支援プログラムの開発のための有効な具体的方法を提示することにより、超・極低出生体重児とその家族の小児虐待の予防や児の成長・発達を促進し、より健全で安心できる生活を送ることができるような支援につなげていけるよう継続していきたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計１件）

①Motoko Okamitsu，Taiko Hirose，Taeko Teramoto，Miho Kusanagi: Forming Partnerships with Mothers: A Case Study

on Parenting Support for a Mother who had Problems with Own Mother. 11th World Congress,World Association for Infant Mental Health,Yokohama, Japan August 2008

〔図書〕（計 1 件）

①廣瀬たい子編著, 岡光基子（分担執筆）他：看護のための乳幼児精神保健入門. 56-64, 金剛出版, 2008

６．研究組織

(1)研究代表者

岡光　基子（Motoko Okamitsu）

研究者番号：２０２８５４４８

分担研究者はなし